

令和元年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日時：令和2年1月18日（土）13：30～17：00

場所：国立がん研究センター中央病院 管理棟1階 会議室A

出席

国臨協関信支部

岩崎康治支部長、吉田茂久副支部長、若林弘副支部長、椎名將昭事務局長、岡村康子理事、小川裕子理事、木津谷亮理事、小池勝人理事、白倉聡理事、竹内智也理事、田中暁人理事、松林秀弥理事、北沢敏男相談役、小関燈監事、益田泰蔵監事（千葉地区会兼任）

各地区会代表

茨城地区会：国仲伸男会長、栃木地区会：久間修平会長、群馬地区会：土井誠一会長、埼玉地区会：永井信浩会長、千葉地区会：益田泰蔵会長、東京地区会：上條敏夫会長、東京・山梨地区会：永井正樹会長、神奈川地区会：山田大助会長、新潟地区会：渡辺靖会長、長野地区会：平原博美会長

1. 開会の挨拶（吉田副支部長）
2. 支部長挨拶
3. 令和元年度関信支部役員・地区代表者自己紹介
4. 関信支部経過報告

1) 事務局

本年度総会員数（会費納入者数）は660名であり、昨年より13名増え過去最多会員数となった。各地区会との連携、国臨協本部・臨床検査専門職・技師長協議会との協力・連携、文化活動、国臨協OB会関信支部との交流、諸会議の開催、第47回国臨協関信支部学会 学会賞選考、関信支部ホームページの活用、関信支部規約改正について報告した。また、国臨協関信支部表彰者4名（赤堀良道氏、小川勝氏、齊藤美穂子氏、山本直樹氏）が受賞されたことを報告した。

2) 学術

関信支部主催研修会を3回、関信グループ主催の医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修を共催で開催した。また、学術委員会と連携し、学術委員会部門長会議、学術委員会主催輸血実技講習会、学会賞選考委員会、第47回関信支部学会を開催し、国臨協地区会研修会へ講師を3回派遣した。

3) 広報

支部ニュースは令和2年1月までに紙媒体として3回、PDF版（人事異動：平成30年11月2日～平成31年4月1日付）を1回発行した。紙媒体の内容は、関信支部定期総会、支部主催研修会、関信

支部学会、国立病院総合医学会など支部活動関連記事と共に、地区会だより、国立病院機構関信グループ研修会などの情報を掲載した。

ホームページは、関信支部活動や地区会活動の情報発信、国臨協 OB 会関信支部だよりの掲載、第 47 回国臨協関信支部学会のコンテンツ作成等の更新を適時行った。またホームページ更新のお知らせを施設連絡者宛にメール配信を行った。

5. 各地区会経過報告

1) 各地区会報告

各地区代表者より組織状況、会議（理事会・総会）、学術（研修会）、広報（会報誌の発行等）、文化活動（レクリエーション等）の報告が行われた。

2) 各地区からの意見および他地区への質問

- ・施設数が少ない地区は年会費が高額になっている。助成金を復活してほしい
- ・会員数が少ない地区は他地区と統合する、研修会を一緒にやることも考えてはどうか
- ・文化活動に悩む、人が集まらない
- ・他施設を知ってもらうため見学会など開催してはどうか
- ・距離が遠い施設が多く、交通事情が大変、人が集まらない
- ・支部のホームページで他地区の状況を知ることができ良かった
- ・若手が多くなっているため、支部に関心を持ってもらえるような活動をしたい
- ・各地区会の年会費を教えてほしい、またどのような使い方をしているか

3) 助成金について

支部より、助成金を廃止したが今後どのような形式が良いか意見を求めた。

- ・支部に所属せず地区会のみ入っている人がいるので、地区会は会費のみで運営すべき
- ・講師の派遣費用に関して取り決めに教えてほしい

6. 各地区会提出議題

1) 事務局関連（会員交流を含む）

(1) 地区会活動助成金(研修会講師派遣等)について

Q：講師謝礼金額等の取り決めについて教えてほしい。

A：講師謝礼金額等については、支部主催研修会も地区会主催研修会も同じ内規で運用している。
内規の公表は考えていないが、各都道府県技師会の会計報告(講師料支出)等を参考にしている。

Q：研修会講師の交通費支給について運用を教えてほしい。

A：学術委員会への講師依頼については、講師派遣申請を受け内規に則り講師料、交通費を支出している。地区会が独自で招聘した講師に対しては、補助金申請を受け内規に則り講師料の補助をしている。

Q：地区助成金の復活をお願いしたい。

A：各地区会の財政に不均衡が生じていることは承知している。地区会主催研修会費用の一部を補助することとしたが、初年度であったこともあり、上手く機能しなかった点があった。地区会財政の不均衡を是正するための方策を継続して検討していきたい。

(2) 地区会について

Q：他地区会の研修会等へのオープン参加はできないか。

A：昨年度も議題に挙がっていたが、地区会から広報の依頼があれば各施設に案内することになっているので活用してもらいたい。また今後ホームページへの掲載もしていきたい。

(3) メール関連について

Q：メールや連絡に訂正・修正が多い。訂正文に対して修正部分を具体的に明記してほしい。

A：今後正誤表を添付することを検討する。

(4) 関信支部の今後の予定について(国立病院総合医学会準備等も含む)

Q：第74回国立病院総合医学会(新潟)に向けての準備状況を報告してほしい。

A：別紙資料にて報告した。臨床検査部門関連会議、懇親会は10月15日にラマダホテル新潟で予定している。

Q：来年度はオリンピックがあるので、支部の予定について早めに知らせてほしい。

A：定期総会・合同交流会4月25日、支部学会は9月5日で決定している。7月の研修会・ビアパーティーはオリンピック開催時期と重なるため中止とする。

(5) 会員交流(合同交流会・ビアパーティーなど)

Q：合同交流会で退職者の参加が技師長しかいない。セレモニーが重すぎて出にくいのではないかな。新人紹介が行われているが、全く会場で盛り上がりにくい。もう少し参加者も交わるような企画はないか。

A：セレモニーは、昨年より分離した形で行っており好評を得ている。セレモニーを疎かには出来ないためご理解いただきたい。新人紹介を含む余興等は役員も毎回苦勞している。具体的な提案がありましたらお寄せいただきたい。

2) 学術関係(学術委員会含む)

(1) 研修会について

Q：若手・中堅技師を中心とした経営に関する研修会を開催してほしい。

A：病院経営や機構の収支等に関する話は大事だが、関信グループと協働で行っているキャリアアップ研修や主任技師育成研修が行われているので活用していただきたい。

Q：地方からの参加は交通費等の負担が大きいため、Webを利用した研修会・勉強会、学会のサテライト形式などの環境を構築してほしい。

A：無料のWeb通信には制限が多く、費用面で課題がある。

Q：技量の格差や標準化を図るために、実技研修を検討してほしい。年数回シリーズで段階的に学習できるプログラムを組んで実施してほしい。

A：会場や準備を考えると少人数のほうが開催しやすいと思うので、地区会でぜひ企画していただきたい。学術委員を含め講師の派遣は可能なので利用してほしい。

Q：検体採取について資格取得研修後のスキル維持のため研修会を開催してほしい。

A：実技は難しいが講演形式は今後検討していきたい。

(2) 支部学会について

Q：アウトソーシングすることによる 70 万円弱の経費増について検証してください。また、会費値上げにならないよう配慮してほしい。

A：参加費 500 円増によって約 30 万円の収入増となったが、システムレンタル料は約 60 万円だった。自主運営する場合の PC 更新費やシステム構築に掛かる労力を考慮すると、十分な費用対効果があると考えます。支部ニュース作成費などを見直す計画で経費の削減を図りながらシステムレンタルを継続していきたい。

Q：支部学会学術奨励賞等の受賞者に対して、「医療」または他の学会誌に投稿するよう文書での働きかけをしてほしい。

A：選考講評で述べていただいているが、文書を発行するかは検討課題とする。

Q：地区会コーナー（ポスター）について、掲示だけでなく、発表あるいは PR 時間を設ける、ホームページ掲載、Web 投票など検討してほしい。また順位付けは必要ないのではないか。

A：地区会コーナーは各地区会活動や交流を紹介するひとつの手段として良い企画だと思う。順位は助成金を授与するための手段で、この獲得のために各地区会も趣向を凝らしてくれている。ホームページへの掲載は、具体的に進んでいなく申し訳ない。各地区会からデータ提供を了承していただき実行していきたい。Web 投票については今のところノウハウがなく、実行できない状況である。

Q：地区会ポスター作成の印刷費は地区会会計を圧迫しかねない。印刷、搬入の代行ができないか。

A：支部で印刷を代行する場合、プリンターを貸していただける施設の決定、用紙およびインクの購入等を検討しなければならない。来年度の学会に間に合うように回答したい。また、データ提供が必要となるので作成期限が短くなると思われる。

(3) 学術委員会について

Q：学術委員会の活動が不透明である。活動方針を明確にしてほしい。学術委員の選出と承認について教えてほしい。

A：活動開始してからまだ 2 年であり、手探りの部分があるので、もう少し見守っていただきたい。PR 活動や活動報告など積極的にしていきたい。規程や委員の選出については改正案を支部提案議題で提示する。

(4) 研修会 DVD 関連について

Q：DVD の貸し出しだけでなく支部ホームページで動画の閲覧ができるようにしてほしい。

A：ホームページでの動画掲載は容量が大きく、また、ファイルをダウンサイジングすると画質が悪くなる。パワーポイントと音声のみにするなど検討中である。

Q：貸し出し状況を教えてほしい。聴講したい講演が録画していないことが多い。

A：貸し出しは 1 回のみ。ホームページにリストを載せるなど工夫をしたい。録画はデータや文献の

著作権の問題があり講師の了承を得られないことが多い。

(5) 学術関連(その他)

Q：学術情報の提供やQ&A集等（輸血以外の部門にも）を発行してほしい。

A：学術委員会で収集したものを取り纏めることになっているが、なかなか出来ていない。質問自体が少ない、学術委員以外の方に質問しているケースもある。収集の仕方も今後検討していきたい。

Q：検査手順を統一できるところは支部内施設共通のマニュアル（推奨）を提示できないか。

A：全施設同じ検査内容、運用で行うことが前提となり困難である。技師会、専門学会が提唱するガイドライン等を参考に、各施設で標準作業手順書を策定するほうが良いのではないかと。併せて検査マニュアルや教育プログラムもしっかり作り込む必要があると思う。基礎的な標準化を目標に研修会を行ったが、受講生が自施設に活用しなかった事例がある。グループ研修や技師会の勉強会も活用するよう指導してほしいとの発言があった。

Q：採血業務について、翼状針の使用はどの程度か知りたい。直針から翼状針に変更していくのか支部で指針が欲しい。

A：4月の第1回研修会で改訂になった標準採血ガイドラインとPOCT機器について講演していただくので参考にしてもらいたい。

3) 広報関係

(1) 支部ニュース関連

Q：支部ニュース投稿文章等の依頼は提出期限に余裕を持ってほしい。

A：原稿依頼は今後検討していく。

Q：支部ニュースとホームページの相互連携をとって会員に周知してはどうか。支部ニュースにホームページの内容をアピールする記事を載せてアクセス数を増やす等工夫をしてはどうか。

A：現在ホームページ更新案内を各施設に配信しているが、支部ニュースの紙面をどれだけ割けるか検討していきたい。

Q：今後、頻発が予想される台風や豪雨などの自然災害に関する情報提供をしてはどうか。支部ニュースで特集を組む、ホームページに災害時の写真投稿してもらい、学会でシンポジウムを企画するなど。

A：支部から原稿依頼をしていきたいと思うが、積極的な投稿も是非お願いしたい。また、災害時や事前察知時の研修会開催連絡は、施設連絡者にメール配信、ホームページへ案内を載せることとしている。

(2) ホームページ関連

Q：各種申請手続きをホームページの入力フォームで可能にしてほしい。各種規定を検索しやすくしてほしい。

A：入力フォームの作成は、ノウハウがなく伝授していただきたい。検索についてはホームページのリニューアルをしてかなり改善したと思っている。今後もアクセスしやすい構成を検討していく。

4) 他協議会対応

(1) 国臨協本部（事業関連）

Q：認定微生物検査技師以外の認定技師にも手当拡充をお願いしたい。

A：機構本部の事業であり対応できない。国臨協本部、院長協議会から要望はしている。

(2) 専門職対応

Q：診療報酬改定における最新情報について配信してほしい。

A：厚労省ホームページで最新情報を確認して随時配信していきたい。

Q：退職者の再雇用動向や定年延長の現状について情報提供をしてほしい。

A：来年度の地区会で情報提供していきたい。

7. 関信支部提出議題

1) 事務局

(1) 第 74 回国立病院総合医学会に向けて

各地区会提出議題にて報告済み。

(2) 地区会助成金廃止について

経緯と今後については各地区会提出議題にて報告済み。今年度の助成金支出について資料を用いて報告した。

(3) 今後の学会運営について

他支部のアンケート結果を資料として提示。参加費、運営経費、会場費等収支の比較をしつつ説明した。200 名規模の支部では運営経費は大きな差はなかった。昨年度運営経費より約 30 万円増だったが、システムを専門業者に依頼したことでトラブルもなく運営でき効果はあったと考えている。収支の面や学術委員会の関わりについて様々なご意見も伺っているので、その点を踏まえて、各地区会のご意見をいただきつつ、来年度について検証し検討していきたい。

(4) 学術委員のあり方について

学会運営、研修会企画等、学術委員会の協力体制についてまだ完全な活動ができているとは言えない状況にあると考えている。今後の活動・運用については学術議題で検討する。

2) 学術

(1) 国臨協関信支部学術委員会規程の改訂（案）について

学術委員会が活動を行う上で現在の規程と齟齬が生じてきているため、規程の改訂（案）を提案した。

Q：任期について、部門長は互選ではないのか。

A：後ろ向きな選出があったので、各部門でより活発な活動をしていただきたいという思いがあり、協議・選出という形になった。

Q：学会運営や学術委員会の在り方など拡大路線になっている。Q&A が集まらないことや消極的な委員がいる現状があるようだが、会員が求めていることと乖離しているのではないか。

A：規程改訂により学術委員に求めることが大きくなるのは懸念されるが、ある程度の目標を掲げ努

力することは大事だと考えている。

Q: 学術的なことは技師会、専門学会でも補填できるのでどの程度の活動をするか考えるべき。支部としてはNHOだからこそできる横のつながりや経験を大事にしてはどうか。専門学会ではハードルが高いが、支部研修会なら参加しやすいなど、棲み分けをすれば利用しやすいと思う。役員の想いだけで動かずに会員にうまくフィードバックできるように検証してもらいたい。

A: 規程に沿って活動していくのはハードルが高いかもしれないが、記載されていないと活動しづらい現状がある。今後、活動報告などを通して監査して検証していきたい。会員に広く浸透し業務に有効的に活用されることを願っている。研修会は基礎的なものを企画していきたい。専門的な分野は学術委員に積極的に企画していただこうと考えている。

規程の改定案は今回いただいた意見を踏まえ、改めて提案させていただく。

(2) 国臨協関信支部学術委員会主催研修会開催規程（案）について

学術委員会が独自で企画、運営する研修会を後押しするため、新たに「国臨協関信支部学術委員会主催研修会開催規程」（案）を提案し、了承された。

(3) 報告事項

① 国臨協関信支部地区会主催研修会の日臨技生涯教育制度申請手順について

国臨協関信支部では、支部主催の研修会等の参加記録をまとめて日臨技生涯教育制度申請を行っている。各地区会で開催される研修会についても日臨技生涯教育制度申請ができるよう、運用手順(案)を提案した。令和2年度より運用を開始する予定。

② 国臨協関信支部会員証の永久保存版化に伴う国臨協会員番号を用いた会員証の発行について

令和2年度より会員証発行に伴う事務的負担を解消するため、国臨協会員番号を用いた永久保存版の会員証を発行する。

- ・ラミレートして配布
- ・領収書は、施設ごとにまとめて施設連絡者宛に送付。原則、個人宛の領収書発行は行わない。
- ・再発行は会員証再発行申請書を提出し、氏名の変更の場合は無償、紛失の場合は再発行手数料（郵送代：切手代）を関信支部事務局に送付してもらう。

③ 国臨協関信支部学術委員会への講演会、研修会等への講師派遣依頼手順について

地区会助成金制度の廃止に伴い「国臨協関信支部補助金申請制度」や学術委員会に対する研修会への講師派遣依頼制度が設けられた。地区会からの要望が円滑に学術委員会へ伝わるよう講師派遣手順（案）を作成した。

3) 広報

(1) 各地区会の研修会や行事予定の情報提供について

事務局に開催連絡をしていただいた場合、支部ニュース・ホームページを通して情報発信をする。

(2) 研修会 DVD の活用について

保管してある支部研修会 DVD のリストを紙面に掲載し利用を促していく。

(3) ホームページのアクセスについて

ホームページのアクセス解析を資料として配布。2019 年のホームページリニューアル後、アクセス数は増加している。現在、掲載する情報を更新した際に施設連絡者に案内を配信しているが、更新した情報に合わせ適宜トップページの写真を変更するなどアクセス数増加に繋げたい。

8. 相談役挨拶（北沢相談役）

9. 閉会の挨拶（若林副支部長）